

## 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	商 学部	身分	准教授
氏名	福島 一矩		
NAME	FUKUSHIMA, Kazunori		

## 1. 研究課題

（和文）組織の劣化現象と管理会計の利用

（英文）An exploratory study of the relationship between organizational deterioration phenomena and management accounting

## 2. 研究期間

2年間（ 2018, 2019 年度）

## 3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度）

（和文）

近年、企業不正などの組織が劣化している状況を示す事例がしばしば見られる。本研究では、組織の劣化現象を、組織における非倫理的行動と捉え、そのような非倫理的行動と管理会計の関係を明らかにすることを目的としている。具体的には、予算目標、業績目標の設定の難易度が、非倫理的な組織行動にどのような影響を及ぼすのかを検討している。なぜならば、高すぎる業績目標の設定が一因となって不正会計を引き起こした東芝の不正会計事件のように、目標設定の難易度と非倫理的な組織行動の間にはなんらかの関係が予想されるからである。

理論的な考察からは、目標の難易度があがるにつれて、非倫理的な組織行動が引き起こされるが、目標が一定水準を超えて、その難易度が高くなると、非倫理的な組織行動の発生が減少するという逆 U 字型の関係が推察された。また、これらの目標の難易度と非倫理的な組織行動の間には、目標に対する動機づけ、目標達成に対するインセンティブ、組織コミットメントといった、目標や組織との関係が影響を及ぼす可能性があることも予想される。

このような理論的仮説の検証のために、営業担当の管理職を対象としてデータの収集を行っていることから、分析を通じて仮説検証を行い、どのような目標設定のあり方、非倫理的な組織行動を助長・抑制するような影響要因を明らかにしていくことが今後の研究課題であり、その研究成果を広く公表していく予定である。

（英文）

The purpose of this study is to clarify the relationship between organizational deterioration phenomena and management accounting. Specifically, we are studying how the difficulty of setting budget goals and performance goals affects unethical organizational behavior.

From theoretical considerations, an inverse U-shaped relationship between goal difficulty and unethical organizational behavior. In other words, unethical organizational behavior is triggered as the difficulty of the goals rises, but when the goal exceeds a certain level and becomes too difficult, unethical organizational behavior is suppressed.